

令和2年度 第3学年 シラバス

SYLLABUS



附

三重大学教育学部附属中学校

もくじ

1 シラバスについて		
シラバスについて	1
三重大学の目標と附属中学校の研究について	2
本校の教育課程授業時数一覧表等	3
2 学習の進め方		
国語	4
社会	5
数学	6
理科	7
音楽	8
美術	9
保健体育	10
技術・家庭	11
英語	13
3 各教科の内容		
国語	14
社会	16
数学	18
理科	21
音楽	23
美術	25
保健体育	27
技術・家庭	29
英語	32
4 通知表について	34

シラバスについて

シラバスとは、各教科の学習内容や学習方法、評価の仕方などを記した総合的な学習計画のことです。本シラバスでは、本校の教育目標－豊かな創造性とたくましい実践力を持ち、生活をきりひらく生徒の育成－を実現するために、各教科の具体的な指導内容・方法、評価の方法を示しています。

まず、教科ごとの学習の仕方を、[授業中]、[家庭学習]、[テスト勉強]に分けて、それぞれ具体的に示しました。次に、年間の「学習のねらい」、「評価の観点と評価の方法」に加えて、年間の「指導計画」を示しています。そして、指導計画の中で「教材名および時間数」、および「つきたい力」について詳細に説明しています。

生徒の皆さん、ここには1年間の学習内容が詳しく書かれています。ぜひ、毎日の授業や自宅での学習において、計画的・主体的に学習に取り組むことができるように、1年間の学習の「道しるべ」として積極的に本シラバスを利用してください。

また、保護者および地域の皆様におかれましては、本校の具体的な学習内容等をご確認いただき、お気づきの点などがありましたらお知らせいただければ幸いです。本校の教育目標に沿ったより良い教育を実現できるように、ご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年4月

三重大学教育学部附属中学校長

新田 貴士

三重大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。
 ～ 人と自然の調和・共生の中で ～

・「4つの力」

生きる力 主体的学習力 実践力 問題解決力 心身の健康 協調性
感じる力 豊かな感性・気づき 倫理性 強いモチベーション 学ぶ喜び
考える力 課題探究力 科学的推論力 クリティカル・シンキング力
コミュニケーション力 国語力 情報発信力 発表・討論・対話力

- ・ 課題探究心, 問題解決能力, 研究能力の育成
- ・ 学際的・独創的・総合的視野をもち, 国際的に活躍できる人材の育成

附属中学校 第30次 研究テーマ

「社会の変化に対応できる生徒の育成」

～SDGsを核に資質・能力が伸びる取り組みを目指して～

育成したい資質・能力

- ・ 「なぜそうなのか」を考える力
- ・ 「本当にこれでいいのか」と考える力
- ・ 新しいアイデアを生み出す力
- ・ 問題に気づく力
- ・ 問題を解決する力
- ・ 振り返り, 次に生かす力

各教科等

各教科等の内容とSTEPを結びつけるための取組として「ESDカレンダー」という計画表を作成し、どの時期にどの教科がどの概念にかかわる授業をしているかを明確にしています。そうすることで教科等横断的な視点で授業を計画でき、教科で身につけるべき力を伸ばしながら、資質・能力を育成できると考えています。

	15～20日	1～5日	8～12日	
例: 「クワックの飲み水」 概念(内容): 【環境】 概念(教科): 【5-10(1)】				単元名 中心 概念

総合的な学習の時間

「STEP」というSDGsを核とした探究的な学習に取り組んでいます。STEPという名称には、次のふたつの意味が込められています。

①Save The Earth Projects(地球を救うプロジェクト)の意。②探究学習の過程をHop(気づき,発想する)Step(計画を立てる)Jump(実行,行動する)ととらえ、Jumpに向けて、自分たちに何ができるかを考える授業にしたいという思い。

〈STEPの取組〉

- ・ **学年をこえた班編成**
 学年にこだわらず、問題意識のもち方や研究の方向性によって班を編成し、協力して活動を進める。
- ・ **個人探究活動**
 テーマに沿って個人で考えたり、調査したりして問題意識をもつ。
- ・ **1日STEP**
 専門家から指導を受ける。
- ・ **活動報告会**
 保護者や専門家, 教員に向けて成果を発表する。

本校の教育課程授業時数一覧表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	学活	総合的な学習の時間	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015
	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

※上段：年間時数，下段：週時数

定期テスト実施計画表

		実施時期	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語
1年	1学期中間	—									
	1学期期末	7/6,7,8	○	○	○	○	○		○		○
	2学期中間	10/19,20	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/18,19,20	○	○	○	○	○		○		○
	学年末	2/17,18,19	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2年	1学期中間	—									
	1学期期末	7/6,7,8	○	○	○	○	○		○		○
	2学期中間	10/19,20	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/18,19,20	○	○	○	○	○	○	○		○
	学年末	2/17,18,19	○	○	○	○	○		○	○	○
3年	1学期中間	—									
	1学期期末	7/6,7,8	○	○	○	○	○		○	○	○
	2学期中間	10/19,20	○	○	○	○		○			○
	2学期期末	11/18,19,20	○	○	○	○	○		○	○	○
	学年末	1/12,13	○	○	○	○					○

※令和2年6月段階での予定です。

国語科 学習の仕方

【授業中】

- ◆文節や意味上の切れ目を意識しながら、適切な間と早さで本文を音読する。
- ◆色ペンなどを使い、わかりやすくまとめられたノートを作る。
- ◆板書されたものをノートに書くだけでなく、先生の話や仲間の意見からメモをとる。
- ◆仲間と意見を聴きあい、根拠や理由付けを捉えたり、自分の考えと同じ点や違う点を捉えたりして考えを深める。
- ◆問題点を明確にし、根拠と理由付けを示しながら論理的に意見を述べる。
- ◆積極的に発表するなど、授業に積極的に取り組む。

【家庭学習】

- ◆まず、授業中の取り組みを大切にしよう。その上で家庭学習による学力アップを目指そう。
授業中に取ったメモを基に、わかったことや考えたことをまとめ直し、再構成しよう。
多読は国語力を高めるので、普段から様々な種類の文章を読むようにしよう。
- ◆自主学ノートの活用
 - ①漢字など基礎的な知識を繰り返し練習して習得する（反復）。
 - ②授業で学習した内容をまとめるなどして整理する（定着）。
 - ③他教科とのかかわりや興味を持った内容を調べるなどして深める（探求）。
- ◆漢字
 - ①読みの確認をする。
 - ②画数や書き順、部首などを確認しながら、指書きをしたり実際に書いたりして練習する。
 - ⑤熟語の意味や実際の文章の中での使い方などを確認し、使いこなせるようにする。
- ◆説明文や物語文
 - ①教科書本文をすらすら読めるように音読練習する。
 - ②新出漢字を覚え、意味の分からない語の意味を調べる。
 - ③文章の内容をとらえるために、主語・述語のつながりや文どうしの接続関係を考えながら読む。

※説明文
普段から、説明的文章が書かれた本や、新聞などを読むようにする。その際、段落ごとの働きや、構成（問題提示・仮説・具体例・意見・結論・主張）を意識する。段落ごとのキーセンテンス（要点の文）に線をひいてみるのもよい。また、主張・根拠・理由付けを捉えたり、筆者が何をどのように認識しているかにも着目したりするとよい。少し頑張って読める難しさのものに取り組んでみよう。

※物語文
普段から文学的文章（小説など）を読むようにする。その際、人物の設定、主役がこだわっていること、主役の心理の変化に注目して読むようにする。また、語り手がその作品世界をどのように語っているかにも着目するとよい。自分が読んでおもしろいものを読めばよいが、夏目漱石・森鴎外・芥川龍之介・川端康成といった、文学史上に残る作家の本に挑戦するのもよい。
- ◆詩・短歌・俳句などの韻文
 - ①本文を暗唱してしまうくらいくり返し読む。（現代語訳も読むとよい）
 - ②比喻や擬人法などの表現技法のはたらきを覚え、どこに使われているかわかるようにする。
 - ③自分なりに主題をとらえ、鑑賞文や感想を書いてみる。
- ◆古典・漢文
 - ①本文を暗唱してしまうくらいくり返し読む。（現代語訳も読むとよい）
 - ②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せるようにする。
 - ③授業中に説明された古典重要語を覚える。
 - ④作品名、作者名、成立した時代を覚える。
 - ⑤係り結びなどの、授業中に説明された言語事項を覚える。
 - ⑦起承転結・押韻・律詩と絶句の違いなど、構成に関する事柄がわかるようにする。
 - ⑧自分なりに主題をとらえ、鑑賞文や感想を書いてみる。
- ◆文法・語句
 - ①文法の問題集を使い、授業で習ったことを中心にくり返し問題を解く。
 - ②習った語句は何度も声に出して書き、覚える。
 - ③テスト前に復習して、定着を図る。

【テスト勉強】

- ◆まず授業中に理解しようと努力することが何より大切です。
- ◆教科書本文を読み直す。
- ◆ワークブックの問題を解き直す。
- ◆漢字・語句・文法・表現技法といった言語事項を覚える。
- ◆普段から本や新聞を読み、自分の手で文章を書き、分からない言葉はすぐに調べるといった、国語に対する態度がそのまま国語力の向上につながります。すぐに国語力はつきません。日々の取り組みを大切にしてください。

社会科 学習の仕方

【授業中】**授業の受け方**

- ・授業前…チャイム着席を守る。忘れ物をしない。服装・身なりを整える。
(公民的資質としてルールを守ることを社会科では学ぶので、その実践として大切にしていきます。)
- ・授業中…自分の考えを発言する。先生の話・仲間の発言をしっかりと聞き、新しく発見したことはノートに書く。私語をしない。

ノートのとり方

- ・板書されたことを写すだけでなく、先生が説明したポイントや大切だと思う言葉がメモしてあるとよい。
- ・資料から気づいたことや分かったこと、話し合いの課題に対して考えたことをしっかりと書く。

発表・発言

- ・資料や既習事実、自らの体験などの根拠をもとに、理由もふまえながらの発言を心がける。
- ・仲間の意見をふまえた発言を心がける。「○○さんに似ていますが…」、「○○さんに付け加えて…」
「○○さんに反対で…」など
- ・仲間の発言に対して簡単に納得をせず、疑問が解消するまでどんどん質問をする。
- ・考えや意見は、先生に対してではなく、クラスの仲間に対して伝わるように、大きな声で発言する。

その他

- ・地図帳や資料集を活用する。授業中に国名や地名が出てきたら、地図帳で場所を確認する。また、仲間の意見で疑問に思ったり、自分の考えをまとめたりするとき、資料集で根拠を探すなど確認する。

【家庭学習】**予習**

- ・次の学習に関連する資料を集めたり、事柄を調べたりしておく。

復習

- ・宿題を忘れずにする。
- ・授業ノートを中心に、新しく学習した語句や用語などの意味を調べてノートのスペースに書いたり、授業中に話しあった内容について自分の考えや感想を書いたりする。また、関連する出来事や資料が新聞や資料集などに載っていたら、切り取ったりコピーしたりして、ノートに貼っておくとよい。
- ・問題集やワークなどの問題を解く。
- ・復習をして、分からないところ、疑問に思うところは、先生に聞くようにする。

興味を持つために

- ・地理的内容の番組、歴史的内容の番組、ニュース・新聞などを見るようにする。
- ・学習した内容をもっと深く知りたい人は、図書室の本を読んだり、ネットのサイトを調べたりする。

【テスト勉強】

- ・ノートを中心に、教科書や資料集を用いて、語句を確認し、授業内容をおおまかに理解する。
- ・社会的語句などを教科書やノートを見て確認するだけでなく、何回も言いながら書いて確認する。
- ・社会的用語や出来事を覚えるだけでなく、その用語や出来事の意味や背景を理解する。
- ・おおまかに理解した内容を、再びノートにまとめてみる。
- ・授業中に確認した資料の見方、作図の仕方など確認をする。など
- ・図や表を用いながら、政治や経済、社会の仕組みをまとめてみる。など

【授業中】

- ① すでに学んだことをもとにして、新しい性質や考え方をみずから発見できるように考える習慣をつけましょう。
- ② これまでに身につけた知識や考え方を利用して、授業の課題を考える習慣をつけましょう。
- ③ ほかの人の意見を聞くときは、自分の意見と比べながらしっかりと聞こう。
- ④ 自分の意見は、大きな声で、具体的にわかりやすく伝えよう。
- ⑤ 疑問に思ったことや付け足したいことがあれば、発言をしよう。
- ⑥ ノートには、黒板に書かれたことを写すだけでなく、先生の説明や仲間の発言、自分の考えを書き加えるなどしてくふうして作りましょう。
- ⑦ 考えをまとめたり、発表したりするときには、たずねられていることと答えがあうように心がけよう。数学では、理由をたずねる、方法をたずねる、事実をたずねるの3つに大別されます。

【家庭学習】

- ① 授業で学習した内容に関連する問題でしっかりと練習することが大切です。計画的に問題集を使って力をつけましょう。
- ② わからない問題や間違えた問題は解答や教科書を参考に理解できるように努めましょう。
- ③ 解答を写した問題は、必ずもう一度解き直し、自分の力で解けるようにしましょう。
- ④ 提出する問題集の問題が難しくなかなか仕上がらない時は、先生のところへ早めに相談しに行きましょう。
- ⑤ 問題集を解く力に余裕のある人は難しい問題（集）に挑戦し、力をつけていきましょう。
- ⑥ 納得できるまで考えることができる家庭学習の時間を有効に活用しましょう。

【テスト勉強】

- ① 授業で学習した内容をよく復習しましょう。
- ② 授業の進度に合わせた日頃の家庭学習が大切です。計画的に問題集を解き進めておきましょう。
- ③ 定期テストや実力テストの範囲を目安に、学習内容の理解が不確かになっているところはないか点検し補充するようにしましょう。

理科 学習の仕方

【授業中】

授業の受け方

- ・自然事象に興味をもって授業に参加しましょう。
- ・友だちの発表を聞きもらさないようにし、自分の考えとの違いや共通点を見つけよう。
- ・発表するときや、班で活動・相談するときは自分の考えを積極的に相手にわかりやすく伝えるようにしよう。
- ・先生の指示をよく聞き、安全に実験・観察できるようにしよう。

ノートのとおり方

- ・板書を写すだけでなく、先生が話した内容等で補足しながらわかりやすくまとめよう。

実験・観察

- ・説明をしっかりと聞き、ペアや班全員で取りくみ、見ているだけの人がいないようにしよう。
- ・積極的に参加し、安全には十分注意しよう。
- ・手順どおりに作業し、結果を出すだけでなく、結果からしっかりと考察しよう。
- ・方法や結果、自分の考察をまとめておきましょう。

【家庭学習】

復習

- ・学習した日のうちに問題を解き、わからないところや間違ったところをしっかりと確認しよう。
 - ・復習をしていてわからないことや疑問に思うことは、先生に聞き、解決しておきましょう。
 - ・実験や観察の結果をまとめよう。
 - ・授業のノートや教科書をもとに、新しく学習した用語をきちんと理解しよう。
 - ・学習した内容と身近な科学事象との関わりを調べ、ノートにまとめよう。
 - ・計算問題や作図は繰り返し解きましょう。
 - ・一度解いた問題も繰り返し解き、知識を定着させよう。
- (間違ったところは、何が間違っていたのかをきちんと確認しておきましょう。)

興味をもつために

- ・不思議に思う身近な科学事象についてどんどん調べていきましょう。
- ・学習したことが身のまわりのどんなところでおこっているのか、利用されているのか調べてみよう。

【テスト勉強】

- ・ノート、教科書や資料集を用いて、語句を確認しよう。また、その語句を説明できるようにしておきましょう。
- ・ワークやプリントの問題を繰り返し解きましょう。特に一度間違った問題は重点的に解くとよいでしょう。
- ・実験や観察の手順や器具の使い方を確認しよう。
- ・実験や観察の結果から導き出せる法則や定理を文章で説明できるようにしておきましょう。
- ・提出物は計画的に進めておきましょう。

音楽科 学習の仕方

【授業中】

- ①授業前に準備物（教科書、資料集、楽器、ファイル）を用意し、開始・終了は、挨拶をしっかりとる。
- ②授業準備物を忘れない。
- ③授業中は集中して、友達の発言や指導者の話をしっかりと聞くとともに、音楽（音）に対して感受する気持ちを切らさない。必要であれば、楽譜に書き込み、メモを取ることを心掛ける。私語はしない。
- ④提出プリントは、理解したことと感じたことを整理し、音楽と自分との関わり方に注視しながら書く。提出する時は、十分見直し、丁寧な文字を書くことを心掛ける。
- ⑤音楽表現は、試行錯誤しながら創意工夫を凝らし、技術的な向上と表現したい思いを高めていく。グループや全体での表現に意欲的に取り組む。
- ⑥鑑賞では、作者の意図や作品の良さや特徴を感じ聴き取りながら、新たな発見の楽しさに出会う。仲間とのコミュニケーションも含め、仲間の考えを積極的にとり入れ、知識や教養をのぼす。

【家庭学習】

- ①親しむ・・・好きな音楽はもちろんのこと、授業で出会った曲を歌ったり、演奏者を変えた演奏を聴き比べたりなどをして音楽に親しもう。
- ②興味をもつ・・・調べ学習を通して、興味を広げてみよう。色んな視点を知ることで、楽曲や音楽文化に迫ってみよう。
- ③根気強く取り組む・・・歌や楽器の演奏は練習が要ります。すぐに上手にならないのは当たり前。粘り強くやれる体験を積み重ねよう。
- ④感性を磨く・・・美術・本・自然・人など音楽だけではない美しいものに触れて、感じる心を自分自身で育てていこう。

【テスト勉強】

- ①音楽の基礎的な知識や楽語（楽典）は、読譜の上で必要です。様々な楽曲を通して習ったことは既習事項として積み重ねていき応用できる力をつける。新曲に出会ったら、何拍子・何調・音の高さや長さを丁寧に読譜する力をつけていく。
- ②リズムや音を正しく読み、記譜できる力をつける。
- ③音楽のしくみや構成を知り、そのことで表現にどのような効果があるのかを知る。
- ④ハ長調をはじめ、シャープ1個程度、フラット1個程度の調の階名が書けるようにする。
- ⑤鑑賞曲を通して、楽曲について必要な音楽の要素を学ぶと共に、作曲者の意図や楽曲のもつ性格や特徴に触れて感じた思いを表現できる。
- ⑥器楽で学んだ楽器は、楽器の構造や運指や調弦、使用する部位、演奏の仕方などを覚える。
- ⑦実技については、繰り返し練習をし、息の流れを感じて表現できるようにする。また、暗譜できるまで取り組み、創意工夫を凝らし曲に合った表現ができるようにする。根気強く練習する。
- ⑧グループテストの場合は、自分だけの表現にとどまらず、仲間の音楽も聴いて、アンサンブルができる状態にする。

※音楽の評価は、授業でどのように表現の創意工夫をして取り組んだか、技能の向上に努めたか、また意欲的に仲間と協力して鑑賞したかが大切であると考えます。

また、提出物としてワークシートがあります。これは、日頃の授業の課題を含めた、自己を見つめ直す大切な用紙で、評価と密接に結びつきます。

※学期に一度、定期テストを行いますが、（3年生は3学期は行わない）ペーパーの知識理解だけが優れていても音楽表現の学力が高いとは判断できない教科であると考えます。

※知識・理解のための教科ではなく、授業のなかで音楽表現を考え、美しい音楽が奏でられる学力をつけていくことを目指します。

美術科 学習の仕方

【授業中】

①準備をする。→②課題を知り、制作する。→③整理をして後片付けをする。
学習上の注意

- ・次の学習内容を把握し、事前に必要な準備物を用意して忘れ物をしないようにする。
- ・その日の課題をつかみ、集中して取り組む。
- ・今日の制作を振り返り後片付けと清掃をする。
- ・作品やワークシートは最後まであきらめずに、完成させる。
- ・様々なことに興味や関心を持ち、それらのことを基にして制作に挑戦する意欲を持つ。また、持続させる。

【家庭学習】☆家庭学習の仕方、日頃取り組んでほしいことなど。

①身の回りにあるものに関心を持つことから始めよう。(観察しよう。)

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

②感性を磨くこと。

美しい夕焼けや道端の名もなき花の美しさに心を止めることのできる心のゆとりを持つ。

美しいものを美しいと感じられるということを大切にしよう。

頭の中に浮かんだアイデアを素直に感じ取り、イメージを大切にしよう。

③自然・芸術・美術に親しもう。(鑑賞しよう。)

自然・美術・芸術に関心を持ち、美しい花や景色、屋外彫刻や建築に関心を持ち、美術館、博物館、歴史館等へ足を運び、本物の芸術にふれる機会を作ろう。

④メモやスケッチをしよう。(メモ用紙、スケッチ帳を持とう。)記録を残そう。頭に浮かんだ発想

をメモしたり、スケッチに残したり、美しい風景や花をスケッチする習慣を作ろう。

⑤制作してみよう。

趣味の中に、絵を描いたり、彫刻を作ったり、デザインやイラストを描くことによって、自己表現にチャレンジしていこう。

⑥調べてみよう。(深める。)

わからないこと、興味を持ったこと、関心のあること、もっと知りたいことについて、とことん調べてみよう。

⑦根気強く続けよう。

どんなことでも、やり始めたら最後まで完成させよう。「継続は、力なり」です。力をつけるには、何よりも努力を続けていくことです。

年に一度テストを行います。

【授業中】**[体育分野]**

- 授業への実質的参加を第一に考えましょう。
 - ・健康管理に細心の注意をし、欠課、欠席、見学をしなくてもよいようにしよう。
(見学の場合も原則として体操服を着用します)
- 安全への配慮をしましょう。
 - ・指定された体操服、体育館シューズを正しく身につけよう(爪も短くしておく)。
 - ・準備、片づけなど場の安全を確認してから行動しよう。
- 課題意識をしっかりと持ちましょう。
 - ・どうしたらうまく表現できるのか意識して取り組もう。
 - ・教えあう仲間を大切に、互いに学びあう関係を築こう。
 - ・個人カードを活用し、学びの振り返りをしよう。

[保健分野]

- 課題意識をしっかりと持ちましょう。
 - ・健康を巡る諸問題を学びます。プリントまたはファイルを活用し、学んだ内容を整理しておこう。
 - ・ともに考える仲間を大切に、互いに学びあう関係を築こう。

【家庭学習】

- 健康管理が問われます。健康な状態で授業に臨めるように体調を整えましょう。
 - ・手洗い、うがいの励行、十分な睡眠、適度な運動、必要な栄養摂取など、健康を維持する行動を心がけよう。また、保健分野で学んだことで実践できるものは進めていこう。
- スポーツ事象に関心を持ちましょう。
 - ・“観る”たのしみ方も学びのひとつです。様々な形態で高度化されたスポーツがメディアから流れてきます。ゲームの中で何が行われているのか興味を持って観ていきましょう。
- 人々の生活に関心を持ちましょう。
 - ・様々な生活環境・基盤・背景のもとで人は暮らしています。その要因に関心を持ち、暮らしとの関わりを考えてみましょう。

【テスト勉強】

- 授業で学んだことが出題の範囲となります。体育分野については、からだで得た感覚を整理する、また副読本など実技資料集でからだの動きやレギュレーション(規制・規則)を確認する。保健分野については、授業で使用したプリントや教科書の内容、領域によっては実習の手順を確認する。

【授業中】

- ・授業を臨むにあたり、準備物を用意しましょう。
- ・作業をする時は服装を整えましょう。技術室（木工室・金工室）での授業の時は、安全面や衛生面のことを考え、作業着（体操服）を準備しましょう。
- ・授業中に話したことはしっかり聴き、必要に応じてノートに書き込んでおきましょう。さらに応用的なこと（日常生活）に活かせるようにしましょう。
- ・製作については、個人製作では説明を聞いた後、安全を考慮して丁寧に取り組みましょう。グループ製作では、他の班員に任せるのではなく、積極的に取り組みましょう。施設、道具を使用する場合、火気、用具、道具の扱いに注意し、安全で事故やケガをしないように心がけましょう。

【家庭学習】

- ・学習した内容で分からない部分は復習しておきましょう。栽培の知識や実践した経験、ものづくりにおける道具の安全な使い方など実生活で活かせるものは実践していきましょう。

【テスト勉強】

- ・授業ノート・プリントを中心に復習しましょう。
- ・授業で話したことを教科書やノートを見ながら思い出しておきましょう。
- ・授業中に行った。作図や作業の手順を復習しておきましょう
- ・授業で使用した機械や道具の名前、使い方を確認しておきましょう。
- ・テスト1週間前に、テスト範囲とポイントが発表されるので、ポイントをしっかりと読んで、テスト勉強に取り組みましょう。

家庭科 学習の仕方

【授業中】

- 授業に臨むにあたり、準備物を整えましょう。
 - ・教科書、資料集、ファイルの準備に加え、各種実習を行う際には、次の準備物を整えましょう。
 - 調理実習：エプロン・マスク・三角巾・布巾
 - 被服実習：裁縫道具
 - *実習で用いる材料等は、基本的に学校で用意します。
- 学習したことを、日常生活に生かす意識をもちましょう。
 - ・授業を通してわかったこと・できるようになったことを、日常生活につなげることが大切です。
- 課題意識をもって、学習に臨みましょう。
 - ・生活をよりよくするための課題を見出すこと、またその課題解決のためにどう取り組めばよいかという意識をもって、授業に臨みましょう。
- 仲間と学びあう関係を大切にしましょう。
 - ・仲間は自分が気づけなかった新しい考え方に気づかせてくれる大切な存在です。仲間と学びあう関係を大切にしましょう。
 - ・自分の考えを確かなものにするために、それをよりの確に仲間に伝えるために、また仲間の考えをしっかりと受け取るために、話す・聴く・書く活動の充実に努めましょう。

【家庭学習】

- 学習したことを、実践してみましょう。
 - ・実習を通して学んだことを実践してみましょう。そこで新たに気づいたことや発見したことがあれば、ぜひ聞かせてください。仲間とともに共有し、次の学習につなげます。
- さまざまな人々との関わりを大切にしましょう。
 - ・家族をはじめとする自分にとって身近な人々だけでなく、自分とは異なる世代の人々等との出会いも大切にしましょう。「全ての人々にとってのよりよい暮らし」の実現に向けて取り組む上で、仲間同様自分の学びを深めてくれる貴重な存在です。

【テスト勉強】

- 定期テスト：教科書の内容・授業で用いたプリントが中心となります。
- 実技テスト：調理及び被服の基礎的な技能をはかるものです。練習の時間を設けた上で実施します。

英語科 学習の仕方

【授業中】

- ①準備物を整え、課題を済ませてから、授業に臨みましょう。
- ②発音や音読ではしっかり口を動かし、発声しましょう。
- ③先生の説明や仲間の発表・発言を聴き合い考え深めましょう。
- ④コミュニケーション活動（ペア、グループ）や課題（英作文、練習問題など）に積極的に取り組みましょう。
- ⑤先生や仲間の質問に積極的に受け答えしましょう。また自分から英語で質問してみましょう。
- ⑥わからないことがあったときは、解決方法を仲間や先生に聞きましょう。
- ⑦ノートには、黒板に書かれたことを写すだけでなく、先生の話や仲間の発言などわかりやすくまとめましょう。
- ⑧課題やワークなど返却されたら、自分の間違えた箇所などを必ず見直しましょう。
- ⑨プリントを整理してファイルに綴じ、復習や提出ができるようにしましょう。

【家庭学習】

《必修編》

- ①学習した日に復習をしましょう。（単語・文法・音読・練習問題など）
- ②定着させるために、語句や本文を何度も繰り返して音読したり、書いたりしましょう。
- ③ワークや調べ学習、スピーチなどの作成・練習等、課題に取り組みましょう。
- ④語句調べ・語句練習・本文写しを行いましょう。

《ステップアップ編》

- ①ラジオやテレビの語学講座に挑戦しましょう。
- ②映画や音楽など英語を聞き、セリフや歌詞を覚えましょう。
（英語の字幕を見ながら映画を観ることも効果的です。）
- ③日記を書いてみましょう。（週に1回や長期休暇など）

【テスト勉強】

- ①語句や英文を英語⇄日本語にできるよう覚えるまで音読したり、書いたりしましょう。
⇒中学校の教科書に載っている英文は基本中の基本です。基本が身につくまでこそ表現力や応用力がつくものです。すべての英文を暗記するつもりで取り組みましょう。
- ②授業で使ったプリントも復習しましょう。文法や語句についての説明や問題に取り組むコツが載っています。
- ③ワークや練習問題のプリントは、次のやり方で取り組んでいきましょう。
 1. 自力でやってみる。
 2. わからないところは、教科書やノートを参考にしてやってみる。
 3. ワークやプリントの解説を見ながらやってみる。
 4. 答え合わせをし、間違えたところについては解説を読み、わからないところは仲間や先生に質問する。
- ④ワークや練習問題のプリントは何度も繰り返し取り組みましょう。

第3学年国語科

<p>1 学習のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり聴いたりして考えをまとめようとする、すすんで文章を書いて考えをまとめようとする、読書に親しみものの見方や考え方を広げようすることに意欲をもって取り組む。 ・目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて論理の展開を考え、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決や合意形成に向けて話し合う能力を身に付けるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする。 ・目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、情報を批判的に読み取りながら、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けるとともに、文章を書いて考えを深めようとする。 ・文章の表現や論理の展開を分析しながら読み、内容や要旨を的確にとらえ、自分の意見を深めたり、新しい問いを立てたりする力を身に付ける。 ・身の回りの多様な表現から文字文化に触れ、効果的に文字が書ける。 	
<p>2 評価の観点と 評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p>①国語に対する関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。</p> <p>②話す力・聞く力 目的や場面に応じ、構成や言葉遣いを工夫したり、自分の考えの根拠を明確にしたりすることを意識して話す。相手の意図や論理の展開を考えながら聞いたり、話し合ったりする。</p> <p>③書く力 目的、読み手に応じた文章の構成や文体を選択し、論理の展開を工夫しながら、考えの根拠を明らかにして文章を書くことができる。</p> <p>④読む力 文章の表現や論理の展開を分析しながら批判的に読み、内容や要旨を的確にとらえ、自分の意見をもったり、文章を評価したりすることができる。</p> <p>⑤言語に対する知識・理解・技能 伝統的な言語文化に親しみ、言葉の特徴やきまり、漢字や身の回りの文字を理解し、使うことができる。行書の基礎的な書き方を理解して書く。</p>	<p style="text-align: center;">評価の方法</p> <p>授業態度 提出物・作文・ノート・ワークシートの記述内容、自主学習ノートの内容</p> <p>リスニング、発言、スピーチなど（姿勢、話す速さ、声の大きさ） スピーチなどの原稿</p> <p>定期テスト、小テスト、ワークシート、作文など</p> <p>定期テスト、小テスト 感想、ワークシート、読み取りメモなどの記述内容</p> <p>定期テスト、小テスト、書写作品など</p>

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	<p>水のようなひと 読み方を学ぼう1 【隠された意味】</p> <p>間の文化 読み方を学ぼう2 【対比】 漢字を身につけよう1</p> <p>おくのほそ道</p>	<p>表現や語りに着目しながら読み、詩に表れているものの見方や考え方を捉える。ことばのもつ意味やイメージを捉え、自分の表現に生かす。</p> <p>論理の展開や表現の工夫に着目し、筆者の主張や対象認識を捉えたうえで、自分の意見をもつことができる。具体と抽象の位相に注意して語句と語句との関係を捉えることができる。</p> <p>古文の仮名遣いや表現など古文の基礎知識について理解を深める。歴史的背景などにも着目して読み、語り手のものの見方や考え方を捉える。</p>	7	<p>ことば発見1 和語・漢語・外来語</p> <p>俳句の世界/俳句十句句会をひらこう 漢字を身につけよう3</p> <p>小論文【平和宣言】</p> <p>書写</p>	<p>和語・漢語・外来語について理解する。</p> <p>俳句のきまりや特徴を理解して、作品の内容を捉える。学習したことを自分の表現に生かす。語句の意味や表現の効果、語り手を意識する。</p> <p>読み手を意識し、効果的に資料を活用して説得力のある文章を書くことができる。書いた文章を読み返し、文章全体を整えることができる。</p> <p>行書の基本的な書き方や書き順を知り、字を整えようと意識して書く。</p>

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
8 9	和歌の世界一万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 論語 漢文の読み方 漢字を身につけよう5①	古和歌の形式や表現の特徴を捉え、その効果について理解し、読み取りに生かす。和歌の詠まれた背景を踏まえ、作者のものの見方について考え、自分の意見をもつ。 漢文の読み方や基礎知識についての理解を深める。漢文特有の響きを味わいながら、孔子のものの見方や考え方を捉える。	1	ことば発見2 敬語の機能と敬意表現 批評文	敬語の昨日や敬意表現についての理解を深め、状況や相手に応じて言葉を使い分ける力をつける。 調査や分析をとおして課題に対する自分の立場や考えを定め、根拠を明らかにし、論理展開が明解な文章構成を工夫して書く。書いた文章を互いに評価し合うことによって、表現をよりよいものに高め、多様な考えがあることを知り、ものの見方や考え方を広げる。
10	握手 読み方を学ぼう3 【回想】 漢字を身につけよう2 フロン規制の物語 読み方を学ぼう4 【小見出し】 漢字を身につけよう4	場面設定の仕方や人物相関、表現、語り手について考えることで、中心人物がどのように描かれているかを読み取る。 「科学技術の発達」に対する筆者の見方・考え方を捉えた上で、自分の考えを広げようとする。表現の工夫から、その意図や効果を捉える。	2	初恋 故郷 漢字を身につけよう7 読み方を学ぼう5 【人物設定】	表現の特徴とその効果を理解し、読み取りに生かす。詩の形式をふまえて朗読する。 場面や登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解に役立てる。語り手について考えることで、文章の構造や内容についての理解を深める。
11	企画会議 情報社会を生きる—メディア・リテラシー	経験や知識を整理しながら、表現を工夫し、根拠を明らかにして自分の考えを説明する。課題の解決に向けて、互いの考えを生かしながら、話し合いを効果的に展開する。 文章を読み、文章の構成とその効果、語句の効果的な使い方を捉える。根拠とその妥当性、書き手の対象認識などについて読み取ったことから考え、自分の意見をもつ。		漢字一字で表現すると ことば発見3 ことばの現在・過去・未来 「文殊の知恵」の時代	自分の考えを文章にまとめ、互いに評価し合うことで、表現をよりよいものに高め、多様な考えがあることを知り、ものの見方や考え方を広げる。 ことばの現在・過去・未来について知り、理解を深める。 多様な考え方があることを知り、ものの見方や考え方を深める。
12	新聞記事を読み比べよう 漢字を身につけよう6 表現につながる文法	筆者の主張を捉え、身近な例や報道の例に目を向けながら内容を理解する。文章を読んで、これからの社会について考え、自分の意見をもつ。 文法の知識を身に付け、ことばの選び方による伝わり方や意味の違いを捉える。		坊っちゃん 漢字を身につけよう8 中学校生活を振り返って 文法のまとめ	語句の使われ方に注意して読み、表現の仕方について評価する。読書の幅を広げるきっかけにする。 目的に応じて文章を選び、効果的な構成を工夫して書く。 ことばの特徴やきまりについて理解を深める。

第3学年社会科

<p>1 学習のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会とは何かを考え、自覚をもって責任を果たそうとする態度を養う。 ・社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、適切に表現する力を養う。 ・平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用する力を養う。 ・社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付け、公民としての基礎的教養を培う。 	
<p>2 評価の観点と 評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p>①社会的事象への関心・意欲・態度 社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会とは何かを考え、自覚をもって責任を果たそうとする。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察する。また、社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、その追究や考察した過程や結果を適切に表現する。</p> <p>③資料活用の技能 平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用する。</p> <p>④社会的事象についての知識・理解 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。</p>	<p style="text-align: center;">評価の方法</p> <p>ノートへの復習やメモ、提出物・忘れ物、授業中の挙手、授業態度、定期テストでの社会的事象に対する関心を問う問題など</p> <p>単元レポート、思考・判断を必要とする発言、ノートやワークシートにおける考えや感想、調べたことや追究したことを表現する課題、定期テストでの思考・判断・表現を必要とする問題など</p> <p>地図・史料・グラフ・絵・パネル・表のよみとり、資料を活用する課題、定期テストでの資料活用問題など</p> <p>小テストや定期テストでの社会的用語をチェックする問題など</p>

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	<p>日清・日露戦争と近代産業</p> <p>第1次世界大戦と日本</p> <p>世界恐慌と日本の中国侵略</p>	<p>近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましに対する関心を高め、意欲的に追究することができる。</p> <p>第一次世界大戦前後の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解し、当時の日本がかかえる課題をみだし公正に判断することができる。</p> <p>昭和初期の我が国の経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過と世界の動きを理解し、当時の民衆の思いや日本の抱える課題を追究することができる。</p>	7	<p>第二次世界大戦と日本</p> <p>大戦後の世界と日本の民主化・世界の新しい動きと日本</p>	<p>第二次世界大戦前後の我が国の動きと世界の動きのあらまし、戦中における日本国民の様子や沖縄戦の実態から、平和を大切にしようとする態度を身に付けることができる。</p> <p>我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加、高度経済成長、沖縄返還など節目となる歴史的事象を通してなどを通して、政治・社会の動きとその特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断することができる。国際社会への復帰、民主化、経済や科学技術の発展とそれに伴う国民生活の向上について、文献・統計・グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる。</p>

8	私たちが生きる現代社会と文化・現代社会をとらえる見方や考え方	アジア諸国との関係など節目となる歴史的事象などを通して、政治・社会の動きとその特色を多面的・多角的に考察し、当時の日本の抱える諸課題をみだし公正に判断することができる。	12	財政と国民の福祉	日本の社会保障制度や年金制度に関わる課題を見いだすことができる。また、その諸課題を解決しようとする態度を身に付けるとともに、財政や租税などの面から多面的・多角的に考察し、公正に判断することができる。			
	個人の尊重と日本国憲法	現代社会に関する様々な資料から諸課題を見だし、その諸課題を解決しようと、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができる。						
	日本の平和主義	憲法に基づく政治が成立するまでの歴史、日本国憲法の三大原則について意欲的に追究することができる。基本的人権について、様々な権利の学習から、個人の権利の裏にある責任や、他者の人権を大切に、差別を絶対に許さない態度を身に付けることができる。				1	国際社会と人類の課題	国際平和の実現、国際連合のはたらき、軍縮、地球環境、エネルギー問題について考えていこうとする態度を身に付けることができる。
		平和主義と自衛隊のあり方や沖縄の米軍基地問題から、現在の平和について考える態度を身に付けることができる。				2	持続可能な社会をめざして	国際社会の諸問題から世界平和に関わる問題や、地球環境、資源、エネルギー問題などに関わる課題を見いだすことができる。また、その諸課題を解決しようと、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができる。また、自らの興味・関心に合わせた卒業レポートを作成し、社会科としての総まとめを行うことができる。
	9	国民主権と日本の政治				民主政治の基本的な考え方や、その考え方に基づく国や地方公共団体の政治のしくみに対する関心を持つことができる。 民主的な社会生活の在り方について、自由・権利と責任・義務の関係を踏まえ公正に判断することができる。		
10	消費生活と経済のしくみ	個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えることができる。						
11	生産のしくみと金融	社会における企業の役割と社会責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動のあり方について様々な立場から公正に判断することができる。						

※国内の政治や経済の動き、世界情勢の変化によって、教材の順序が入れかわったり、時間数が変動したりします。

第3学年数学科

<p>1 学習のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・式を扱いやすい形に変える方法として、展開したり、因数分解したりすることを理解し、見通しをもって式を効率的に変形し活用できるようにする。 ・数の平方根について理解し、無理数とは何かということを考えてともに、なぜその数が必要なのか考察し、数を用いてものごとを考察・処理できるようにする。 ・簡単な二次方程式を理解し、二次方程式を解くにはどうすればよいか考え、さらに二次方程式を用いて実際の問題を解決できるようにする。 ・具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べ、関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知る。また、その特徴を調べ、問題解決に利用することができるようにする。 ・図形の相似の概念を明らかに、三角形の相似条件をもとにして図形の性質についての理解を一層深めるとともに、相似の考えが活用できるようにする。また、観察・操作や実験を通して相似という見方のよさを実感し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばす。図形について見通しをもって論理的に考察する能力を伸ばす。 ・円を観察し、操作や実験などの活動を通して、図形を論理的に考察し表現できる能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりする態度を育てることができるようにする。 ・三平方の定理とは何か理解し、それらを活用することができるようにする。 ・母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解し、標本調査を行うことで何がいえるか考察できるようにする。 	
<p>2 評価の観点と 評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p>	<p style="text-align: center;">評価の方法</p>
<p>①数学への 関心・意 欲・態度</p>	<p>様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。</p>	<p>授業での発言や活動の様子、提出物の内容やテストでの評価等から総合的に判断します。</p>
<p>②数学的な 見方や考 え方</p>	<p>数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を見いだしたり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。</p>	<p>テストでの評価を基に、授業や提出物での発想やアイデア、自分の発見等の内容を加味し、総合的に判断します。</p>
<p>③数学的な 技能</p>	<p>平方根を含む式の計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、標本を抽出したりするなど、技能を身に付けている。</p>	<p>テストでの評価を基に、授業や提出物での計算の正確さや数学的表現の仕方が適切にできているかを総合的に判断します。</p>
<p>④数量や図 形などに ついての 知識・理 解</p>	<p>数の平方根の必要性和意味、式の変形の意味とはたらき、二次方程式、図形の相似の意味や円周角と中心角の関係の意味、三平方の定理の意味、関数 $y=ax^2$ の特徴、標本調査の必要性和意味などを理解し、知識を身に付けている。</p>	<p>テストでの評価を基に、授業や提出物での学習した内容の理解の程度を加味し、総合的に判断します。</p>

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	【式の展開と因数分解】 ・式の乗法, 除法 ・乗法の公式 ・素因数分解 ・因数分解 ・式の計算の利用 【平方根】 ・平方根 ・平方根の値 ・有理数と無理数 ・根号をふくむ式の乗法, 除法	・式の計算に関心を持ち, 多項式と単項式の乗除や多項式の積の展開のしかたについて理解し, その計算に習熟する。 ・ $(x+a)(x+b)$ の展開, 平方の公式, 和と差の積の公式を使って, 一次式の積の展開ができる。 ・数についての理解を深め, 自然数を素因数分解することができる。 ・因数分解の意味を理解し, 共通因数を取り出したり, 乗法の公式を利用したりして, 多項式を因数分解することができる。 ・これまで学んできた式の計算を利用して, 数の計算を簡単にしたり, 整数や図形の問題を解決したりする。 ・数の平方根の意味や根号を使った表し方, 平方根の大小など, 平方根について理解することができる。 ・数の平方根の意味を理解し, 電卓を用いてそのおよその値を求めることができる。 ・有理数と無理数の意味と無限小数と無理数を表す小数の違いを理解したり, 数を有理化したりすることができる。 ・根号をふくむ式の乗法, 除法や式の変形, 根号をふくむ式の値を求めることなどができる。 ・根号をふくむ式の和と差や, 根号をふくむ式の積の計算ができる。 ・平方根を様々な問題解決に利用することができる	8	・二次方程式と因数分解	・因数分解を用いて二次方程式を解くことができる。 ・二次方程式を問題解決に利用することができる。 ・身のまわりの事象の中には, $y=ax^2$ で表される関数関係があることを知り, その特徴を理解する。 ・関数 $y=ax^2$ のグラフとその特徴を理解し, グラフをかくことができる。 ・グラフから, 関数 $y=ax^2$ の y の値の増減を調べ, x の変域から y の変域を求めることができる。 ・関数 $y=ax^2$ のとる値の変化の割合について調べ, 一次関数との違いを明らかにする。 ・身のまわりの事象の中から関数 $y=ax^2$ の関係を見つけ, それを利用して, 問題を解決することができる。 ・これまでに取り上げてきた関数以外にも, グラフが階段状になる関数などがあることを理解する。
			9	・二次方程式の利用 【関数 $y=ax^2$】 ・関数 $y=ax^2$ ・関数 $y=ax^2$ のグラフ ・関数 $y=ax^2$ の値の増減と変域 ・関数 $y=ax^2$ の変化の割合 ・関数 $y=ax^2$ の利用	
7	・根号をふくむ式の計算 ・平方根の利用 【二次方程式】 ・二次方程式とその解き方 ・二次方程式の解の公式	・二次方程式とその解の意味を理解し, 平方根の意味にもとづいて二次方程式を解くことができる。 ・二次方程式の解の公式を用いて二次方程式を解くことができる。	10	・関数 $y=ax^2$ の利用 ・いろいろな関数 【図形の相似】 ・相似な図形 ・三角形の相似条件	・図形の拡大・縮小の意味を知り, それをもとに図形の相似の意味と相似な図形の性質を理解する。 ・三角形の相似条件を知り, 簡単な場合にそれを用いることができる。 ・三角形の相似条件を使って図形の性質を証明することができる。 ・平行線と線分の比に関する性質を見だし, それを活用することができる。 ・中点連結定理を導き, それを用いて辺の長さを求めたり, 図形の性質を証明したりすることができる。
			11	・相似条件と証明 ・平行線と線分の比 ・中点連結定理	

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
12	<ul style="list-style-type: none"> 相似な図形の面積 相似な立体の表面積・体積 相似の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 相似な図形について、相似比と面積の関係やそれを利用して問題を解決することができる。 立体の相似について理解し、相似比と表面積の比、体積の比の関係を利用して問題を解決することができる。 縮図をかいて、2地点間の距離や建物の高さを求めることができる。 	3	<p>【標本調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 標本調査 標本調査の活用 <p>【補充・深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 復習 	<ul style="list-style-type: none"> 全数調査を行うことが困難な場合があることを知り、標本調査の必要性和その意味を理解する。また、標本調査の方法と標本抽出の方法を知り、母集団と標本について理解する。 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえ説明することができる。 高等学校等への入学試験に向けても兼ねて、これまでの学習を振り返り、さまざまな課題に取り組むことができる。
1	<p>【円の性質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円周角と中心角 <ul style="list-style-type: none"> 円周角の定理の逆 円の性質の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 円周角の定理を発見し、それが二等辺三角形の性質によって証明できることを理解する。 円周角の定理の逆を理解し、活用することができる。 これまでに学んだ円の性質を利用して、具体的な場面で活用することができる。 			
2	<p>【三平方の定理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理 <ul style="list-style-type: none"> 平面図形への利用 空間図形への利用 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・操作を通し、三平方の定理を見だし、それが証明できることを理解する。また、三平方の定理の逆について知る。 三平方の定理を利用して、正三角形の高さ、弦の長さ、2点間の距離などを求めることができる。 三平方の定理を利用して、直方体の対角線の長さ、正四角錐の高さや体積などを求めることができる。 			

第3学年理科

<p>1 学習のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生物についての観察・実験を通して、生物の成長と殖え方、遺伝現象について理解させるとともに、生命の連続性について認識を深める。 身近な天体の観察を通して、地球の運動について考察させるとともに、太陽や惑星の特徴及び月の運動と見え方を理解させ、太陽系や恒星など宇宙についての認識を深める。 自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。 物体の運動やエネルギーに関する観察・実験を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解させるとともに、日常生活や社会と関連付けて運動とエネルギーの初歩的な見方や考え方を養う。 化学変化についての観察・実験を通して、水溶液の電気伝導性や中和反応について理解させ、これらの事物・現象をイオンのモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。 エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。 		
<p>2 評価の観点と評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p>		<p style="text-align: center;">評価の方法</p>
	<p>①自然事象への関心・意欲・態度</p>	<p>自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を日常生活とのかかわりでみようとしているか。</p>	<p>授業中の活動（挙手、話し合い） 授業ノート・ワークシート・実験レポート（学習内容、感想や疑問の記述）宿題（達成度）</p>
	<p>②科学的な思考・判断・表現</p>	<p>自然の事物・現象について、観察・実験を通して実証的、論理的に考えたり、分析したり、総合的に解決するとともに、その結果や過程を表現できるか。</p>	<p>授業中の活動（発言内容） 授業ノート・ワークシート・実験レポート（考察、考えた理由の記述） 定期テスト（「科学的な思考」の分野の達成度）</p>
	<p>③観察・実験の技能</p>	<p>観察・実験の操作を習得し、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけているか。</p>	<p>授業中の活動（観察・実験の取り組み） 実験レポート（正確な記録） パフォーマンステスト（正しい器具の扱い） 定期テスト（「観察・実験」の分野の達成度）</p>
	<p>④科学的な知識・理解</p>	<p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身につけているか。</p>	<p>授業中の活動（知識の理解度） 定期テスト（「知識・理解」の分野の達成度）</p>

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	<p>○生命の連続性 1章 生物の成長とふえ方</p> <p>2章 遺伝の規則性と遺伝子</p>	<p>細胞分裂の観察を行い、生物の成長を細胞の分裂と関連づけてとらえる。</p> <p>さまざまな生物の生殖方法と遺伝のしくみを理解する。 遺伝の規則性の基礎を定着する。</p>	7	<p>○化学変化とイオン 1章 水溶液とイオン</p>	<p>電気分解の実験よりイオンの存在を見出し、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。 イオンのモデルを用いて、電池の原理を説明することができる。 いろいろな電池に関心をもち、燃料電池のしくみについて興味をもつ。</p>

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
7	2章 酸・アルカリと塩	酸とアルカリの特性を理解し、酸とアルカリの反応で中和反応がおこることを理解する。	12	○地球と宇宙 1章 地球のその外側の世界	太陽系の特徴を知り、銀河系に所属することや、その外にある銀河についても知る。
8				2章 太陽と恒星の動き	天体の見かけの動きから、地球の自転や公転という運動との関連を理解する。
9	○運動とエネルギー 1章 力のつり合い	2力がつり合う条件を見だし、2力のつり合いを理解する。 作図によって合力や分力を求めることができる。	1	3章 月と金星の動きと見え方	月や惑星が太陽や星座の星とは異なった動きをしていることを確かめ、その動きや見え方の変化のしくみについて理解する。
	2章 物体の運動	記録タイマーやストロボ写真をもとに物体の速さや運動の様子を調べる方法を身につける。 物体に働く力と運動の関係を理解することができる。		○自然と人間 1章 自然界のつり合い	微生物のはたらきを調べ、生物の数量関係と栄養摂取の関連について理解する。
10	3章 仕事とエネルギー	仕事の定義を理解し、仕事の原理を見いだす。 位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと、物体の高さや質量、速さとの関係を見いだす。 力学的エネルギーが保存されることを理解する。	2	2章 人間と環境	身近な自然環境を調べ、人間の生活が自然環境に影響を及ぼしていることを理解し、自然環境を保全する重要性を認識する。
	4章 多様なエネルギーとその移り変わり	身のまわりにあるエネルギーに関心を持ち、エネルギーがどのように移り変わるか理解する。 エネルギーの総量が一定であることを理解する。		3章 自然が人間の生活におよぼす影響	自然からの恩恵と災害について理解を深め、自然との共生について考える。
11	5章 エネルギー資源とその利用	人間はさまざまなエネルギー資源を消費していることを認識する。 将来のエネルギー資源について環境保全の視点から考える。		4章 科学技術と人間	科学技術について、その発展の過程や利便性について認識する。
				5章 科学技術の利用と環境保全	科学技術の発展と人間生活との関わり方、自然と人間の関わり方について、多面的・総合的にとらえる。
				復習	高校入試等に向けて中学校で学習した内容の復習を行う。

第3学年音楽科

<p>1 学習のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との学びあい学習を通して、音楽の表現能力を高めるようにする。 ・分散型学習を取り入れることにより、多種の教材を効率的に学習できるようにする。 ・混声四部の曲を通して、音楽に親しむことができるようにする。 ・文化祭で発表するクラス合唱を通して、音楽により親しみ、生活を明るく豊かなものにするよう努める。 ・日本の伝統音楽（器楽）や西洋楽器に親しむことにより、多様な表現方法を学ぶことができるようにする。 ・我が国の伝統音楽を含め、多様な音楽を鑑賞することにより、様々な音楽に対する理解を深めるようにする。 	
<p>2 評価の観点と 評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p>①音楽への 関心・意 欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動の喜びを味わっている。 ・音楽や音楽文化に関心をもっている。 ・主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。 <p>②音楽表現 の創意工 夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素をわかろうとしている。 ・音楽を形づくっている要素の働きを感受している。 ・音楽表現を工夫し、その表現意図をもっている。 <p>③音楽表現 の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を活かした音楽表現を行うための技能を身につけている。また、その表現を創造的に表している。 <p>④鑑賞の能 力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素をわかろうとしている。また、それらの働きを感受しながら解釈したり、価値を考えたりして音楽に対する理解を深め、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 	<p style="text-align: center;">評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動の参加の仕方、表現意欲（観察） ・実技テスト意欲（観察） ・提出物の様子 ・忘れ物の有無 ・課題学習（記録用紙）の内容 ・定期テストの一部内容 <ul style="list-style-type: none"> ・提出プリントでの音楽要素の工夫 ・グループ練習（観察） ・ ・定期テストの一部内容 <ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト (音量、リズム、音程、音色) <ul style="list-style-type: none"> ・提出プリント（鑑賞）での音楽要素を考えた工夫 ・グループでのコミュニケーション（観察） ・定期テスト

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	<ul style="list-style-type: none"> ・島唄 〔譜読み〕 ・ポピュラー音楽 〔鑑賞〕 ・附中のハーモニー 自由曲 〔鑑賞〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の中で生まれた音楽の意味と役割を感じることができる。 ・歌詞の内容から作者の心情を感じとり、表現の工夫ができる。 ・20世紀以降の様々なジャンルの音楽に触れその時代背景や特徴を知り、幅広い視野に立って音楽を感じることができる。 ・候補曲を鑑賞し、クラスの代表曲として選曲できる。 ・歌詞の内容を理解し、楽曲に相応しい表現ができる。 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・Yesterday 〔斉唱と器楽〕 8 ・アルト・リコーダー 上級 9 ・附中のハーモニー 課題曲 〔譜読み〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律と英語の語感との関係に着目し、英語の歌詞で自由に歌うことができる。 ・副旋律はアルト・リコーダーで演奏する。派生音に挑戦し、表現を創意工夫し、歌と合わせて演奏することができる。 ・パート別に読譜に取り組むことができる。 ・相応しい速度や強弱記号を工夫して表現できる。 ・各パートの役割、声の音色や響き、発声について理解し、曲にあった音楽表現を試しながら、協働して作りあげることができる。 ・曲の背景に迫り、社会における音楽の意味や役割を考えることができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 練習の成果を個人で発表する。 			

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
9	・各クラス選択曲	<ul style="list-style-type: none"> ・情景を思い浮かべ、旋律のまとまりを生かした表現を工夫できる。 ・曲との出会いを大切に、初発の感想が書ける。自分の声に合ったパートの読譜に取りかかることができる。 ・各パートの旋律を覚え独立して歌うことができる。 ・どのような表現がふさわしいのかを考えることができ、発信することができる。 ・技術的な向上を図りながら、試行しながら曲想をつけることができる。 ・歌詞を熟読し、言葉の意味を理解し、旋律と歌詞の関連性に気づくことができる。 	11	・歌唱実技テスト ・ブルタバ〔鑑賞〕	<ul style="list-style-type: none"> ・自由曲を小編成にして発表会を行う。聴く側は審査員となり、聴き方の視点に合った聴取ができると共に、自分なりの視点も探することができる。 ・情景がどのように音楽で表現されているかを聴き取ることができる。 ・作曲された時代背景や作曲家の人物像に迫ることにより楽曲への理解を深められ、プレゼンテーションを行うことができる。
10	・課題曲 ・各クラス選択曲	<ul style="list-style-type: none"> ・各パート練習を機能的に働かせ、自主的な取り組みができる。 ・独立して歌えると共に、仲間の声を聴き合い、バランスの取れた歌とは探求することができる。 ・練習の中で上手くいかないことの原因を考え、意見を出し合い聞き合いながら協働し、よりよいものを作ろうとする姿勢がもてる。 ・発声に工夫を凝らし、響きのある声を求めようとする。 ・構成を理解することによって、フレーズを感じた歌い方を体得し、諸記号の意味と効果を生かした表現を築くことができる。 ・指揮者と伴奏・合唱とが一つになる体験を通して合唱を愛好し、一体感を味わうことができる。 	12	・旅立ちの日に〔合唱〕	<ul style="list-style-type: none"> ・曲のしくみや諸記号の意味を理解し、豊かな響きのある声でそれらの表現を工夫することができる。
			1	・日本の伝統音楽に親しもう④ ・雅楽〔鑑賞〕	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統芸能に親しみ、その良さを味わい、日本の音楽文化を大切にする気持ちちがもてる。
			2 ～ 3	・旅立ちの日に国歌、校歌 ・実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな響きのある声で、卒業式にふさわしい楽曲として仕上げるることができる。

第3学年美術科

1 学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の活動に取り組み、美術を深く理解し愛好しようとする心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ・対象を深く見詰め感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。 ・自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。 		
2 評価の観点と 評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①美術への 関心・意 欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を高めるために、主体的に学習に取り組もうとする。	作品、鑑賞プリント、振り返りプリント及び、合評会の意見発表から、取組の質を読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	②発想や構 想の能力	感性や想像力を働かせて、対象を深く見詰め、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩の構成などの効果を生かし、心豊かで独創的な表現の構想を練っている。	作品・テスト、振り返りプリント及び、合評会の意見発表から、アイデアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	③創造的な 技能	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現の意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表している。	作品・テスト及び、合評会から、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
④鑑賞の能 力	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。	鑑賞プリント・テスト及び、合評会の意見発表から、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。	

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	休校期間中課題合 評会 人物を描く	・1年間の流れがわかる。 作品の良さを自分の目と心で受け止め自分の言葉で表現できる。 対象を深く見詰め、丁寧に表現することができる。 観察に基づいて、質感や細部の表現まで追求することができる。		③印面の彫刻 ④印面の試し押し	はみ出すことなく慎重に正確に篆刻することができる。 均等に圧を考慮して押印することができる。
7	落款の制作1 印面づくり ①印面のデザイン ②印面の転写	①篆刻作品を鑑賞しながら、篆刻の基本的な概念と制作手順について理解することができる。	8 9	(3週間教育実習) 鑑賞(デザイン・ 工芸・建築)	作品を鑑賞する。 作品の良さを自分の目と心で受け止め、自分ので表現できる。

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
9	(2週間教育実習) 落款の制作2 ① 持ち手のデザイン ② 展開図を描く	①使いやすさ, 美しさを考えてデザインすることができる。 ②上面, 4側面の形に矛盾がないように展開図がかける。 ③対になる面と切断する部分を描くことができる。	11	印箱の制作2 印箱の制作 ・印箱のデザインを転写する。 (トレーシングペーパー)	正確にトレースできる。
10	③ 転写 ④ 持ち手の彫刻 ⑤持ち手の彫刻仕上げ ⑥持ち手彫刻の磨き	④立体彫刻の手順を理解することができる。 正確に慎重に彫刻することができる。 ⑤自分が思い描いた形になるまで彫刻をすることができる。 ⑥耐水ペーパー2000番と日本手ぬぐいで鏡面磨きができる。	12	・印箱の彫刻, 着色をする	丁寧な着色, 彫刻をする。
	印箱の制作1 ・印箱のデザイン ・印箱のデザインを再再検討し, 制作する。 【臨時休校中課題分】	・自分の納得にいくデザインをつくることができる。	1	・印箱の彫刻・塗装仕上げ	木目に沿って彫り, 着色では, 塗りむらなく着色することができる。場合によっては, 何層も塗ることができる。
			2	・印箱の塗装をする。 うすく塗り, 何層にも塗り重ねる。 ・表面に光沢が出るまで塗り重ねる。	ムラなく何層も膜を作ることができる。
			3	授業終了	

第3学年保健体育科（体育分野）

<p>1 学習のねらい</p>	<p>(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p>	
<p>2 評価の観点と評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p>①運動への関心・意欲・態度 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p> <p>②運動についての思考・判断 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。</p> <p>③運動の技能 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。</p> <p>④運動についての知識・理解 選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義の考え方を理解している。</p>	<p style="text-align: center;">評価の方法</p> <p>○行動観察（準備運動、準備、片付け、服装を含めた授業への取組） ○ワークシート等の提出記入状況 ○授業の出席状況</p> <p>○行動観察（授業での課題解決のための動き、安全、話し合いなど） ○ワークシート等の提出記入状況 ○定期テストの問題</p> <p>○行動観察（技能の習得状況） ○記録会</p> <p>○行動観察（授業における技能の知識、ルール） ○定期テストの問題（基礎・基本事項）</p>

第3学年保健体育科（保健分野）

<p>1 学習のねらい</p>	<p>「健康な生活と疾病の予防」</p> <p>(1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>	
<p>2 評価の観点と評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p>①健康・安全への関心・意欲・態度 健康な生活と疾病予防について関心を持ち、学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②健康・安全についての思考・判断 健康な生活と疾病予防について、課題を持つことができ、その解決のために既知の知識を活用した学習などにより科学的に考え、判断しそれらを表している。</p> <p>④健康・安全についての知識・理解 疾病の発生要因、生活習慣、喫煙・飲酒・薬物乱用、感染症、医療機関や医薬品と健康との関係について、それらを巡る諸課題を理解し、その解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>	<p style="text-align: center;">評価の方法</p> <p>○授業への取り組み状況 健康と環境に関する資料の活用 課題解決に向けた意見交換など</p> <p>○授業への取り組み状況 ○資料などで調べたことをもとに課題の解決方法を見つけ、かつ説明できる。また、筋道を立てて説明できるなど ○定期テストの問題</p> <p>○授業への取り組み状況およびレポートの内容 ○健康を巡る諸課題について理解したことを言ったり、書いたりしているなど ○定期テストの問題</p>

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	体育理論 (文化としてのスポーツ)	<ul style="list-style-type: none"> 文化としてのスポーツの意義について感心をもち、学習に積極的に取り組もうとしている。また、学習した知識を活用したり応用したりしている。 文化としてのスポーツの意義について理解している。 	10	器械運動	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 器械運動を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 器械運動の特性に応じた技を身に付けている。 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。
	球技 I	<ul style="list-style-type: none"> 球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。また球技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 球技の特性に応じて、ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。 	保健分野 (健康な生活と病気の予防)	<ul style="list-style-type: none"> 7月と同じ。 	
7	保健分野 (健康な生活と病気の予防)	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表し、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。 	11	陸上競技 II	<ul style="list-style-type: none"> 9月と同じ。
			12	球技 II	<ul style="list-style-type: none"> 6月と同じ。
9	水泳の心得	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。 	1	ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 ダンスを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ダンスの特性に応じて、交流ができるよう、イメージをとらえた表現や踊りをするための動きを身に付けている。 ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解している。
			2	剣道	<ul style="list-style-type: none"> 武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 武道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 武道の特性に応じて、攻防を展開するための基本動作や基本となる技を身に付けている。 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。
	陸上競技 I	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 陸上競技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 陸上競技の特性に応じた、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けている。 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。 	3	保健分野 (健康な生活と病気の予防)	<ul style="list-style-type: none"> 6月と同じ
				体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動の楽しさや心地よさを味わうことができるよう、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を組み合わせてとともに、学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解している。

第3学年技術科

1 学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータや情報手段と、生活や社会とのかかわりを理解する。 ・コンピュータやソフトウェアの機能を知り、基本操作ができる。 ・コンピュータやソフトウェアの利用法を知り、情報の処理ができる。 ・情報社会の問題点を知り、情報を扱う際のルールとマナーを身につける。 ・プログラムを理解し、設計、制御の仕組みを身につける。 		
2 評価の観点と 評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①生活や技術への関心・意欲・態度	授業や実習に意欲的に取り組むことができる。 授業で学習したことをプリントやノートに記述することができる。	授業の様子 提出物(作品への取り組み) 授業プリント・ノート テスト
	②生活を工夫し創造する能力	作品を作る上での課題に気づき、どうすればよいか考え工夫できる。プログラミングによる制御で、プログラムを効率よく工夫し作成することができる。	授業の様子 提出物(作品の工夫) 授業プリント・テスト
	③生活の技能	ソフトウェアの機能を使い、情報を集めたり、発信など発表を行ったりすることができる。基礎的なプログラムを作ることができる。課題をきちんと仕上げることができる。	作業の様子 提出物(作品の出来具合) 授業プリント・ノート テスト
④生活や技術についての知識・理解	コンピュータの構成、機能、名称を理解して、コンピュータの正しい使用方法を理解できる。マルチメディアについて理解できる。プログラムの方法を理解できる。		テスト 授業の様子 授業プリント・ノート・テスト

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	材料と加工に関する技術 ・情報に関する技術 ・情報に関する技術とその役割 ・情報を扱う機器の構成	生活や社会を向上させている、情報に関する技術に気づく。 コンピュータが生活で果たす役割について考える。 コンピュータを構成する要素の種類や役割を知る。 コンピュータを構成するハードウェアおよびソフトウェアの種類と機能を理解する。文字入力ができる。フォルダの階層構造を理解し、ファイルの保存・読み込みを適切にできる。	8	・人権や個人情報の保護 ・情報を処理するしくみ ・知的財産の保護 ・生活の中のメディア ・情報社会の安全性について ・生活の中にある設計制御	人権や個人情報を保護するためのルールを知り、情報の利用の仕方について考える。 情報の信頼性、不正侵入、コンピュータウイルスなどの危険性を知り、その対策について理解する。 コンピュータで計測・制御できる。 簡単な制御プログラムを組むことができる。 ロボットを制御するプログラムに興味を持ち、プログラムを組むことができる。
			9 10		
7	・情報通信ネットワークの構成 ・情報を伝えるしくみ ・インターネットの利用 ・情報通信ネットワークの危険性 ・情報セキュリティ ・利用するときのモラル	インターネットの利用方法や、情報伝達手段の特徴を理解し、有効にかつ正しく活用していこうとする姿勢を持つ。 情報の活用をふり返り、扱うときに必要なルールやマナーについて知り、情報モラルの必要性をまとめることができる。	11	・情報の収集と加工 ・目的に合った作品をつくる。	アプリケーションソフトを用いて、作品づくりの構想・計画を立てる。作品に必要な素材を収集し、目的に合わせて編集・加工し、作ることができる。
			12		
			1 2	・プログラムによる模型の制御	・ロボットを制御するプログラムに興味を持ち、操作することができる。

第3学年家庭科

<p>1 学習のねらい</p>	<p>○(家庭分野全体のねらい)個人及び家族の発達と生活の営みを総合的に捉えて、日々の生活活動の中で、生活の主体者として自立するとともに、家族をはじめとする他者とともに、生活課題の改善や解決に取り組む実践力をもち、明日の生活環境・文化をつくることのできる資質・能力を育む。</p> <p>○(本学年のねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と家族や家庭生活との関係について考えるとともに、家庭と家族関係及び地域とのかかわりについての理解を深め、それを基にしてこれからの自分と家族とのよりよい関係について考えることができる。 ・幼児との触れ合い活動等を通して、幼児の心身の発達と生活の特徴についての理解を深めるとともに、幼児への関心を深め、よりよいコミュニケーションのとり方を工夫することができる。 ・自分と家族や地域・社会とのかかわりについて理解を深めるとともに、より豊かな生活を実現させるための生活課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。 ・環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できる。 	
<p>2 評価の観点と評価の方法</p>	<p>評価の観点</p>	<p>評価の方法</p>
<p>① 生活や技術への関心・意欲・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合い活動等に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。 ・自らの生活の振り返りから見出されるより豊かな生活の実現につながる生活課題に対し、その解決に向けて、意欲的に取り組もうとしている。 ・自分や家族の消費生活や環境に配慮した消費生活について関心をもち、よりよい消費生活を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様相観察：準備物、授業への取り組み ○プリント等の提出及び記入内容状況 ○出席状況
<p>② 生活を工夫し創造する能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合い活動等において、幼児の発達段階をふまえた工夫を盛り込んでいる。 ・自らの生活の振り返りから見出されるより豊かな生活につながる生活課題に対し、その解決に向けて工夫している。 ・課題解決のために自ら考え取り組んだことをさまざまな形でわかりやすく表現している。 ・物資・サービスの選択、購入及び活用、環境に配慮した消費生活について課題を見出し、その解決をめざして工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様相観察：課題解決のための取り組み、グループでの取り組み、発表時の様子等 ○プリント等の記入内容状況 ○作品
<p>③ 生活の技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合い活動等において、幼児の発達段階を踏まえた活動を行っている。 ・自らの生活の振り返りから見出されるより豊かな生活につながる生活課題に対し、その解決のための技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様相観察：各活動場面における技能の習得状況 ○作品
<p>④ 生活や技術についての知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達及び生活の特徴について、基礎的な知識を身につけている。 ・幼児の発達を支える家族の役割について理解している。 ・自らの生活の振り返りから見出される、より豊かな生活につながる生活課題に対し、その解決につながる知識を身につけている。 ・家庭生活と消費、消費生活と環境とのかかわりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様相観察：各活動場面における知識の習得状況 ○定期テスト

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	<ul style="list-style-type: none"> ・幼いころを振り返ろう ・幼児の心身の発達と生活を考えよう ・幼児の生活と遊びを知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の幼い頃をさまざまな視点から振り返る。 ・幼児の心身の発達と生活の特徴について理解する。 ・幼児にとっての遊びの意義及び心身の成長発達とのかかわり(遊びは体の発達や運動機能、言語、情緒、社会性等の発達を促していること)を理解する。 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい消費者生活をめざして 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚を高め、よりよい消費生活について考えることができる。 ・自分や家族の消費行動が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫する。 ・幼児の発達段階に適したおもちゃを製作することができる。
			10	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と環境とのかかわりについて考えよう ・幼児のおもちゃの製作 	
			11	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との交流 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合いに適した布製品の製作。 ・幼児との触れ合い1 ・幼児との触れ合い2 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合い体験で活用できる布製品を製作することができる。(フェルト名札) ・課題をもって、幼児と適切に関わる。 ・幼児への関心を深める。 ・幼児にみあった接し方や遊び方を工夫する。 ・幼児との触れ合い体験を通して、幼児に対する理解を深める。 ・第1回目の触れ合い体験を振り返ることで、幼児に対する関心及び理解をさらに深める。 ・第1回目の触れ合い体験を生かし幼児への関心をさらに深め、幼児にみあった接し方や遊び方を工夫する。 ・子どもを育てる環境としての家族の役割を理解する。 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児のおやつ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を活かし、幼児と交流する。 ・幼児に適したおやつを計画し、調理する。 ・自分や家族の生活の課題を見つけ、その課題を解決するための計画を立てて実践することができる。 ・実践の成果と課題について、わかりやすくまとめ、発表することができる。
			1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の課題と実践 	
			2		
			3		

第3学年英語科

<p>1 学習のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国や言語・文化に対する理解を深めるとともに、英語を用いコミュニケーションを積極的にはかろうとする態度を身につける。 ・英語を聞いて、話し手の考えや情報、英文の内容を理解する能力を身につける。 ・自分の気持ちや考え、身近な話題について、簡単な英語を用いて話す力を身につける。 ・英文を読んで書き手の考えや英文の内容を理解する力を身につける。 ・英語を用いて自分の考えや身近な話題について簡単な英文を書く力を身につける。 ・自国の伝統文化について興味を持ち、英語で紹介する力を身につける。 ・海外で読まれている新聞や雑誌の記事に触れ、世界から見た日本の情勢や、地球環境について考えることができる。 	
<p>2 評価の観点と評価の方法</p>	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p>① コミュニケーションに対する意欲・関心・態度 言語や文化に対する知識や伝達能力を高めるとともに、コミュニケーション活動に対し意欲・関心をもって参加することができる。</p> <p>② 表現の能力 英語を用いて、自分の考えや気持ち、情報など伝えたいことを話したり書いたりして表現することができる。また、発音やイントネーションを正しく理解し、声の大きさやジェスチャーを工夫する等、伝達をするためのスキルが習得できる。</p> <p>③ 理解の能力 英語を聞いたり、読んだりして、話し手や書き手の意図や内容など、相手が伝えようとすることを正しく理解することができる。</p> <p>④ 言語・文化に関する知識・理解 英語の学習を通して言語やその使い方についての知識を身につけるとともに、さまざまな国の文化について学んだり、自国文化について認識を深めたりすることができる。</p>	<p style="text-align: center;">評価の方法</p> <p>ALTとの授業やコミュニケーション活動を含めた授業での取組の姿勢・発言およびその内容、予習・復習・提出物の提出や実施の状況など</p> <p>テスト（定期テストや音読テストなど）、授業での取り組み、英作文・スピーチ・スキットなどの取り組みおよび発表など</p> <p>テスト（定期テストやリスニングテスト、スピーキングテスト）、授業での取組など</p> <p>テスト（定期テストや単語テストなど）、調べ学習、授業での取り組みなど</p>

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	<p>LESSON 1 My Favorite Words</p> <p>Let's Talk 1 道案内をしよう</p> <p>LESSON 2 France-Then and Now</p>	<p>○ことばの持つ力について関心を高める。</p> <p>○受け身形を理解し、使うことができる。</p> <p>○自分の好きなことばについてスピーチをすることができる。</p> <p>○Could you tell me ...?などの表現を用いて道順をたずねたり、説明したりすることができる。</p> <p>○外国と日本の文化交流について知る。</p> <p>○現在完了形（継続用法）を理解し、使うことができる。</p> <p>○自分が継続して行っていることについて、質問したり述べたりできる。</p>	7	<p>Let's Listen 1 動物園のアナウンス</p> <p>Let's Talk 2 どうしましたか</p> <p>LESSON 3 Rakugo Goes Overseas</p> <p>Project 1 (1) 先生にインタビューをしよう</p> <p>Let's Listen 2 (1) 英語落語「時そば」</p>	<p>○話し手が伝えたい情報を聞き取ることができる。</p> <p>○人に病状についてたずねたり、説明したりすることができる。</p> <p>○日本の伝統文化およびそれを世界に発信することに関心を高める。</p> <p>○現在完了形（経験用法・完了用法）を理解し、使うことができる。</p> <p>○英語でインタビューをして、その内容をまとめることができる。</p> <p>○英語で伝統芸能を聞き、内容を聞き取ることができる。</p>

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
8	LESSON 4 The Story of Sadako	○広島原爆にまつわる事実を知り、平和について考えることができる。 ○Make+A+BやIt is～(for A) to…を理解し、使うことができる。 ○本文の要約を英語で書くことができる。 ○英語でニュースを聞き、内容を理解することができる。	11	Project 2 日本文化を紹介しよう	○日本文化を紹介するプレゼンテーションを行うことができる。
9	Let's Listen 3 テレビニュース	○ていねいな依頼や申し出の表現を理解し、用いることができる。	12	LESSON 7 English for Me	○英語と自分とのかかりについて考え、英語で意見を述べるることができる。 ○want+A+toや間接疑問文の構造を理解し、使うことができる。
	Let's Talk 3 買い物しよう	○英語で物語を読み、その世界を味わうことができる。		Let's Talk 5 電話しよう	○会話を継続させるための、ストラテジーを意識しながらチャットをすることができる。 ○電話による対話独特の表現を理解し、用いることができる。
	LET'S READ 1 Dolphin Tale	○世界のさまざまな国・地域について知る。	1	Let's Listen 6 英語の歌	○丁寧な依頼や、承諾・確認の表現を理解し、用いることができる。 ○英語の歌を聴き、メッセージを理解することができる。
	LESSON 5 Places to Go, Things to Do	○関係代名詞(主格・目的格)を理解し、使うことができる。 ○自分の行きたい国についてプレゼンテーションをすることができる。		Project 3 ディスカッションをしよう	○身近な話題について、英語でディスカッションすることができる。
10	Let's Listen 4 旅行案内	○ツアーガイドの説明を聞き、内容を理解することができる。	2	Further Reading1 We Can Change Our World	○英語で書かれたひとりの少年の生き方とおし、人生を切り拓いていく強さや行動力の大切さを学ぶことができる。
	LESSON 6 I Have a Dream	○アメリカの公民権運動について知り、人権の大切さを考える。 ○後置修飾を理解し、使うことができる。 ○効果的なスピーチの仕方について考えることができる。		Further Reading2 The Story of Nishikori Kei	○英文を読み、あきらめずに夢に向かって努力することの尊さを感じることができる。
	Let's Listen 5 英語のスピーチ	○相手が理解しやすいように工夫を凝らしてスピーチできる。		Further Reading3 Japan, an Amazing Country	○日本について理解を深め、外国人に紹介できる。
	Let's Talk 4 玉子料理はいかがですか	○人に食べ物などを丁寧に勧めたり、それに対して返答したりすることができる。		3年間のまとめ	入試問題に取り組み、慣れる。

現在の学習指導要領に準拠した通信表について

三重大学教育学部附属中学校

★通信表について

本校では、学期ごとに作成し、年間3枚を配付しています。1学期には1学期分のみが印字され、2学期には1学期のデータに加え2学期のデータを追加印字した新しい通信表をわたします。新学期になってから通信表を集めませんので、御家庭に通信表がいつも手元にあつて、いつでも見られ、生徒・保護者が自分の状況を振り返ることができるようにしています。

学習の記録

教科	観 点	1学期		2学期		学年末	
		評価	評定	評価	評定	評価	評定
国語	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
社会	言語についての知識・理解・技能						
	社会的事象への関心・意欲・態度						
	社会的な思考・判断・表現						
	資料活用の技能						
数学	数学への関心・意欲・態度						
	数学的な見方や考え方						
	数学的な技能						
	数量や図形などについての知識・理解						
理科	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
音楽	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創意工夫						
	音楽表現の技能						
	鑑賞の能力						
美術	美術への関心・意欲・態度						
	発想や構想の能力						

3年 E組

特別活動等の記録

前	
生徒会	
学 級	
部活動	
	1学期

各教科の「観点」に記載されている項目です。

評価(ABC), 評定(12345)について、表示する順序を、学期別に整理しています。

★学習評価(成績のつけ方)とシラバスについて

学習評価(成績)のつけ方

- ①目標に準拠した絶対評価をすること。
- ②各教科の観点をABCで評価し、総合的判断として12345の評定を決めること。
- ③1・2学期の評価・評定を元に、3学期の状況を勘案して、1年間を総合した評価・評定を決めること。

学習指導要領に示された基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成について、バランスよく確実に身に付けさせるよう工夫改善を進めます。

そのひとつとして、シラバスを作成し、生徒に学習の進め方や内容等について説明します。これに基づき、各教科の目標に準拠して評価をします。単にABCを、1～5を付けていく作業ではなく、成績を付けたことにより、生徒一人一人について、今後どんな学習改善や指導が必要なのか等、学習支援を進める契機としていきます。

学習評価の改善に関する

基本的な考え方(文部科学省)

- ①きめ細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、「目標に準拠した評価」を引き続き着実に実施すること。
- ②新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。
- ③学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

学習状況により評価や評定の到達ラインを適切に定めます。

本校では「◇%以上はA」、「△点以上はA」等と、固定しません。たとえば、「ある計算」を6月中旬に学習したと仮定します。2学期に「この計算」をもとに新しい学習を進めていく場合、2学期に成績をつけるときには、◇や△はかなり高い数値になります。「この計算」は、初めて学んだときに比べて、練習もしっかりこなし、十分に定着していると判断するからです。

しかし、「この計算」の成績を1学期につける場合には、まだ学習したばかりなので、徐々に定着していけばよいと判断して、◇や△は低めの数値になります。計算方法や原理は学んだけれど、それを活用してしっかりと身に付けるところまでには時間的に経験が少ないと判断するからです。

このように、学習状況に応じて、到達ラインの設定を変えることで、生徒の確かな学力の定着に活かします。既習内容なのですぐに満点をめざすことも大切ですが、失敗を繰り返したり、自分でじつくりと学習を進めたりして、少しずつ自分の力に変えていく、そのような「安心して学べる」視点から、生徒の学習を支援していきます。

生徒一人一人の強み・弱みを明確にします。

太郎さんはA A A Bで5、花子さんはA A A Aで4がつけました。

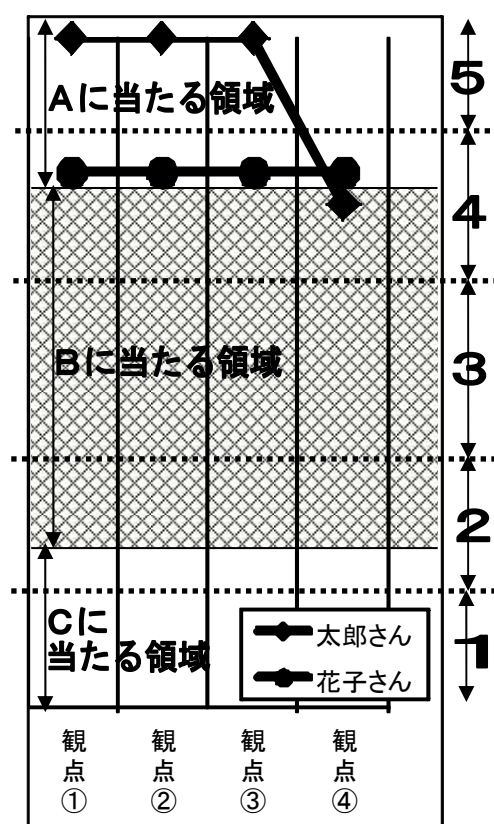
右図を見てください。3段階評価のABCには、幅があります。例えば、Aといっても、「堂々のA」と「Bとの境界のA」があるため、すべてが「Bとの境界のA」を取った花子さんはオールAですが、総合的な評定は4がつきます。また、「堂々のA」を3つ、「Aとの境界のB」を1つ取った太郎さんはA A A Bですが、総合的な評定は5がつきます。

見かけ上は、A A A AとA A A Bでは、A A A Aの方がよく見えますが、具体的にA B Cの内容や状況にまで踏み込み、生徒一人一人の強み・弱みを明確にしていきます。

花子さん(A A A A, 4)には、「どの観点もBとの境界ギリギリのAの状況であるため、Aに満足(安心)しないで、がんばっていきましょう」というメッセージを三者面談等で伝えます。

太郎さん(A A A B, 5)には、「観点①②③についてはほとんど完璧に仕上がっているけれど、観点④についてしっかりとがんばっていきましょう」というメッセージを伝えます。

もちろん、教科担任からのこれらのメッセージは、学級担任を通じて生徒・保護者へ、直接教科担任から生徒へ、それぞれ伝えられます。単に、A B Cのうちどんな記号がついたかに一喜一憂するのではなく、みなさんはA B Cの状況を知るとともに、教師は今後の学習の改善につながるよう指導・支援を進めます。



※上図は、説明を簡単にするために、単純化したイメージ図です。各単元・領域によって到達度(A B Cの境界)は変わりますので、一律に境界値を示すことはできません。実際には到達度に関する生徒一人一人のデータやその境界値は、学習指導要領に準拠し、シラバスに基づいて算出しています。また、学習内容や学習状況によって、各観点のバランスやウエイトなど、各教科において適切に設定しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



年 組 席

名前